

野鳥にふれる朝①

8月11日・山の日の朝、玄関前で小鳥が横たわって死んでいました。恐らくガラスのドアに気付かず衝突してしまったのでしょうか。あまり時間は経っていないようで、脳震盪(のうしんとう)を起しているだけで実はまだ生きていたのでは?と疑ってしまいうらい、フワフワでやわらかいのです。

体の大きさはスズメくらいで、短くてやや太めのクチバシなどは、旭岳山麓の森でよく見かける「アオジ」に似ています。大人のアオジは、胸からお腹にかけてやや緑がかった黄色で黒い縦のまだら模様が入っているのが特徴(メスは少し色が淡い)ですが、こちらは全体的にぼやけた色合いです。体もきもち小さめです。幼鳥〜若い個体なのかもしれません。そんな感じでご遺体の状態がとても良かったので、標本にして保存することにしました。

まずは羽の標本をつくりまします。作り方は簡単で、専門的な道具も特に必要ありません。注意点は、野鳥はさまざまな雑菌や寄生虫を持っている恐れがあるので、必ずゴム手袋などを着用すること。作業後は身の回りの消毒も忘れずに。

鳥の翼は、部位ごとに呼び方の違う羽が重なり合っていてできています。鳥の頭を上にし、翼を広げて背中側から見たとき、いちばん下側にくる大きな羽は風切羽(かざきりばね)と呼ばれる部分です。このうち先端側にある少し尖ったような形をした範囲が



Nature Column (ネーチャーコラム)
自然ガイドなどで活躍する人たちをリレーしています。

初列風切(しよれつかざきり)で、プロペラの役割を担っています。そこから内側に向かって次列/三列風切と分けられ、これらは飛ぶときに上へ押し上げる力を発揮します。風切羽の上に覆いかぶさるようについている柔らかい羽は二覆羽(あまおおいばね)と呼ばれ、これも上から小・中・大雨覆と層のようになっていますが、今回はいちばん下の大雨覆(おおあまおい)だけを使いました。



クリアファイルなどの厚みのあるシートに部位の名前を書いたマスキングテープを貼って、鳥の体についている形どおりに差し込んでいきます。これでおおよそ標本の形になりました。

と、この記事を書こうとした日の朝、ふたたび外でアオジが亡くなっているのを発見。余談ですが、とある論文によると、北海道東部において人口建造物への衝突で死んでしまった野鳥のうち、最も多かった種類がシメ、その次がアオジなのだそうです。

今回は「はね」の標本でしたが、次回は「ほね」、骨格標本の製作過程を紹介します。

旭岳ビジターセンター 高橋可翔



ティム・ホートンズ

東川町国際交流員(CIR)

ゾエ・アスコリ

カナダには様々なシンボルがあります。メープルの葉、アイスホッケー、カナダグース、王立カナダ騎馬警察などはご存知かと思いますが、「ティム・ホートンズ」のことについて聞いたことはありませんか?

ティム・ホートンズはカナダの有名なコーヒーとドーナツのお店です。ティム・ホートンという有名なホッケー選手と友達のジム・シャラードが1964年に一緒に設立しました。初めは小さかったお店が、今では14ヶ国で4800店以上を構える巨大なチェーン店になりました。

今のカナダではどこに行っても必ずティム・ホートンズがあります。日本のセブンイレブンのように遍在しています。私がカナダで通っていた大学の敷地には五つの店舗があったほど。

さて、このチェーン店はなぜそこまで人気なのでしょう。最も大きい理由は、安くて誰でも行くことができるからです。ティム・ホートンズの店内には、人種・仕事・年代・性別など関係なくさまざまな人がいます。カナダは異文化共生の国なので、「誰でも行

ける」というところが大切です。また、ティム・ホートンズは優れた商品を提供するという評判もあり、カナダが大切にしている価値観のシンボルともいえる店です。

毎年2月には、コーヒーカップに当たりかハズレが書いてあるという抽選を行います。その抽選時期には、国中が興奮します。300万円近くの車が当たる可能性もあります! 車は40台しかないのに、当たる可能性は低いですが、コーヒーやドーナツが当たる確率は6回に一回です。

もちろん、この世の中には完璧なものはありません。最近ではバーガーキングとの合併とブラジルの会社の取得により、世間の評判が悪くなりました。最低賃金が上がった際に、労働者をたたく解雇したことも悪く思われましたが、カナダは一人当たりが飲むコーヒーの量では世界のトップ10に入るので、愛されるシンボルのままでいると思います。

もしティム・ホートンズがある国に行く機会があれば、ぜひご賞味ください!